

教師ノート

日付	2017年 8月13日
単元	基本的な教理・1
テーマ	神の愛と義
タイトル	神について - 愛と義の神さま -
テキスト	ローマ5:6-8、エレミヤ9:24、詩篇98:9
参照箇所	詩篇73:17-27、ヨハネ15:13、Iヨハネ4:8,4:10、Iコリント13:4-8
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ローマ5:6-8 or エレミヤ9:24 or 詩篇98:9	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) 中3巻4題12課	
メモ(情報・例話など)	
※アウトラインと教師ノートは高学年向けに作られています。必要に応じて、聞き手の段階に合うようにアレンジしてください(低学年が多い場合は、ポイント1「神の愛」だけを語るなど工夫しましょう)。	
□導入	
今日も、神さまのご性質について、お話します。神さまの愛とは、どんな愛でしょう？恋愛ドラマの愛と同じでしょうか？神さまの義とは、何でしょうか？	
☞「信仰義認」の教理については、「救い」の単元で扱います。	
□ポイント1 神さまの愛は、どんな愛でしょう？(ローマ5:6-8)	
神さまの愛は、私たち人間の愛とは違います。7節に「正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人がいるいはいるでしょう」とあります。これが人間の愛です。私たちは、「性格がいいから愛する」とか「親切にしてくれるから愛する」とか、相手に愛するだけの値打ちがある場合に、相手を愛することができます。	
しかし、神さまの愛は、ただ私たちのためだけを思って、値なしに注がれる愛です。神さまは「私たちがまだ罪人であったとき」(8節)愛してくださいました。また、「弱かったとき」、「不敬虔な(神さまに従わない)者」を愛してくださいさるのです。私たちの方からは、神さまに何もよくしてあげられなくても、神さまは何も得をしなくても、私たちのことを「高価で尊い」といって大切に思ってくださるのです。	
また、神さまの愛は神さまの方から進んで、ご自身を犠牲にしてくださいさる愛です。イエスさまは、罪人である私たちのために「進んで」、「死んでくださった」のです(7-8節)。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」(Iヨハネ4:10)、「人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません」(ヨハネ15:13)とあるとおりです。	
☞十字架のみわざは、神さまの愛のご性質そのものなのです。このようにして神さまは、ご自身の愛を明らかにしてくださいさったのです(8節)。このような愛を、人間の愛と区別して、「アガペー」の愛と呼びます。聖書の原語で神さまの愛を表すことばです。	
☞聖書は、「神は愛です」(Iヨハネ4:8)と言っています。神さまのご性質の中で、愛というのは非常におもだった重要なものです。ですから、神さまのことを知りたいと思ったら、神さまの愛について知ることがとても大切です。	
☞Iコリント13:4-8「愛は寛容であり…」は、まさにアガペーの愛の描写です。	

□ポイント2 神さまの義とは、何でしょう？(エレミヤ9:24、詩篇98:9)

神さまご自身は「義」なるお方です。神さまは、ご自身で「わたしは主であって、地に恵みと公義と正義を行なう者であり、わたしがこれらのことを喜ぶからだ」とおっしゃいました(エレミヤ9:24)。それは、神さまは、ご自身の定められた律法に、完全に従って、正しく行動する方であるということです。神さまが、ウソをついたり、残酷になったり、悪をなすことは、絶対にありません。

そこで、神さまは、私たちにも「義」であるように求めておられます。神さまは、私たちにも、神さまの教えに従って正しく生きるように、強く願っておられるのです。

そして、神さまは、私たちを「義」によって裁判して下さるお方です。公平で正しい審判です。「主は義をもって世界をさばき、公正をもって国々の民を、さばかれ」ます(詩篇98:9)。人間の裁判・審判には間違いがあり得ます。アウトなのにセーフと見間違えたり、犯人ではない人を、間違った証拠やウソの証言をもとに刑務所に入れてしまったりします。また、裏では悪いことをしている人が、先生の前でだけイ子にしてほめられてしまうこともあれば、逆に見えないところで頑張っている人が、ちょっとした失敗や誤解で、罰を受けてしまうようなこともあるでしょう。でも、神さまの裁判では、間違いも、えこひいきもありません。義と公正をもって裁かれます。すべての罪が正確に明らかにされ、すべてのよい心が正確に明らかにされます。正しい人にも、不正な人にも、正しくその報いが与えられます。

☞ 私たちは、「あの人は天国、あの人は地獄」と人を裁いてはなりません。最後は、神さまが「正しく」裁いて下さるので、お任せするだけです。ただ神さまを信じて正しく生きるように励みましょう。

☞ どうして、愛と義の神さまは、世の中で正しい人が苦しんでいたり、不正な人が得をしているという不公平をゆるしているのでしょうか？地上の人生だけが全てではないからです。肉体が死んだ後、魂がどうなるかの方がずっと大事です。一番大事な最後の裁判では、この世のような不公平はありません。イエスさまを信じている人は、最後は必ず最高の結果に終わるのです。(みなさんがよく見るドラマやマンガでも、正しいひとが始めは苦しんでも、最後は必ずハッピーエンドになりますね)。天国では、神さまの愛と義が完全なものとなります。詩篇73:17-27を読もう。

□結論 神さまは、愛であり、義なるお方です

神さまは、私たちが罪人であったときに、私たちのために進んで、御子キリストの命を犠牲にして、その愛を表してくださいました。そして、神さまは義と公正をもって私たちを裁いて下さるお方です。

☞ 愛と義は相反するものではありません。人を甘やかし、ただやりたい放題にさせるのが愛ではありません。正しいことを正しい、悪いことを悪いとはっきり教える正義なくして、愛は成立しません。愛と義は相互に含まれている関係です。また、神の義は罪に罰を与え、神の愛は罪を赦します。そこでイエスさまが、罪人への愛のゆえに、その罰を受けられたのですから、愛と義は一緒に働くものです。

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1:私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさいとあります。神さまの愛がどんな愛か分かったら、そのように家族やお友だちを愛せる人になりましょう。どこの国の人も、こどももお年寄りも、やさしい人もイジメっことも、みんな神さまに愛されています。どんな相手にも、自分から進んで犠牲を払う、究極の神の愛をあらわせる人をめざそう!

例2:神さまが最後の審判で正しく裁いて下さることを喜ぼう! 私たちはイエスさまの十字架によって罪が赦されているのです。だからこの世での不公平に文句を言ったり、くじけたりしないで大丈夫です。ただ神さまを愛して生きていけば、間違いなく、天国に行けるのです。喜んで、神さまを愛していこう!